

うつのみやまちづくり市民会議 第2回合同会議 議事録

会議の名称	市民会議（第2回合同会議（第5回全体会） 都市自治分科会）
開催日時	平成19年2月26日（火）午後6時15分から8時00分
開催場所	宇都宮市役所 9階9A会議室
出席者	（市民委員）中村会長，浅見副会長，浅野（薫）委員，浅野（政）委員，柿沼委員，川又委員，小針委員，清水委員，船津委員 （欠席：浅野（薫）委員，橋立委員） （市担当部局）みんなでまちづくり課，広報公聴課，政策審議室，行政経営課，予防課から各1名 （市事務局）
会議内容	・策定本部における分科会からの提案内容への現在の検討状況について
会議資料	1. 策定本部における検討内容一覧
発言者	発言内容
市民委員	策定本部の検討結果について，曖昧な表現で示してあるものは，我々からきちんとその真意を聞いていきましょう。
事務局	市の策定本部の担当課の皆さんは自己紹介をお願いします。それから，分科会の提案施策に対する対応状況について，順にご説明ください。 （担当課の職員の自己紹介と対応状況に関する説明）
市民委員	【全般に関して】 説明を伺いましたが，ほとんど0回答ではありませんか。分科会でここまで時間をかけて，内容についても詳細をつめて，また事業名についても工夫をこらして提案したものですから，担当課の皆さんはもっと前向きに私たちの提案内容を検討してもらう必要があるのではないのでしょうか。
事務局	総合計画は来年度にかけて引き続き検討していきますので，今回のご報告については，あくまで現状での検討内容ということでご理解いただければ幸いです。当然，各部局で今後とも，前向きに提案内容については検討していくものです。

市	<p>【地域自治コーディネーター】</p> <p>ご提案の課題としては、コーディネーターとなる市民の方の知見や知識が、現状では十分なものであるかどうかという点があると思います。ご提案の内容を受けて、市民の中からコーディネーターがでるよう、地域からの人材の発掘や育成に努める必要があるかと思います。</p>
市民委員	<p>まずは、「まちづくり支援グループ」の地域担当職員とともに地域まちづくりのコーディネートを行うスタッフを、市民から募集することからはじめてはどうでしょうか。一緒にやるうちに、必要な知見や知識もつくはずだし、また地域のご意見番的な人を募集すれば、職員が持っていない知見や知識をそなえているはずです。報酬も特にいらないのではないのでしょうか。</p>
市民委員	<p>最初は職員がコーディネーターをやることは仕方がないかもしれないが、徐々に地域事情に詳しい市民がコーディネーターとなっていくべきだと思います。</p>
市民委員	<p>私たちの提案では、コーディネーターが自治会等への「営業」に行くことを重視していました。ただ職員を配置するのではなく、職員が積極的に地域に出て行く点についてもきちんと今後検討してほしいと思います。</p>
市	<p>【市民力向上懇談会】</p> <p>ご提案の内容は既に設置されている「地域まちづくり組織」に通じると思います。今後、この組織を通じて、ご提案にあるような、大規模な事業の事前説明や意見の徴収など実現していけないかどうか、検討をしていきたいと思います。</p> <p>また、ご提案にある条例化についても検討していきたいと思います。</p>
市民委員	<p>「市民力向上懇談会」についても、色々と検討した上での名称であるので、名前についても採用できないか検討していただければ幸いです。</p>
市	<p>【公的組織のPR機能の革新】</p> <p>地域情報については、広報誌は市政情報を全市民に伝える媒体であることや、紙面に限りがあることなどから、重要性は理解できるが、地域情報についてのページを割くことについては限界があると思います。</p>

市民委員	折込の紙を広報誌に挟む方式にすれば、ページ数の制限に関する問題はないと思います。費用も、ページ作成は市民にまかせるので、折込の紙代と印刷代に限定されるでしょう。
市民委員	特定の地域がいつも登場するのではなく、地域ごとに持ち回りにすれば、不公平ではなくなると思います。
市民委員	<p>“市民力”の向上のためにも、市民が主体となって地域版の広報誌を作成し、それを別刷りで配布することで、市民主体の情報の流通が図られると思いますので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。</p>
市	<p>【ムダ発見・アイデア提案起動隊】</p> <p>議会、監査委員、外部監査制度がチェック機能を果たし、また既に様々な審議会や懇談会もあります。加えて「宮だより」により市民の意見は聞いています。そのため、ご提案の内容は既存の仕組みと重複しているところが課題だと思います。</p> <p>また、行政はしかられることがあっても、なかなかほめられることはありませんので、行政の取り組みのよい点についてもお知らせできるかどうかわかりません。</p> <p>他には、起動隊の市民委員から建設的な提案が寄せられるかどうかについても不安があります。</p>
市民委員	<p>議会や監査委員などのチェック機能がうまく働いていない部分がある点を踏まえて今回は提案していますので、特に重複してはいないと思います。</p> <p>また、提案した電子討議室について触れられていませんが、こちらもきちんと検討していただく必要があると思います。</p>
事務局	<p>既存の審議会や懇談会では、市民からの意見の“投げっぱなし”，行政の“聞きっぱなし”が課題になっていることから、今回の提案は、代表的な市民の意見を抽出するための「フィルタリング機能」や、提言がきちんと実現されているかどうかの「チェック機能」を“起動隊”が設けることを提案しています。この点を踏まえて今後も検討いただければ幸いです。</p>
市	<p>【協働意識向上のための啓発事業の実施】</p> <p>ご提案にあるシンポジウムやパネルディスカッションという形では、これまで協働意識向上の取り組みは図ってこなかったため、提案の内容はぜひ</p>

市	<p>検討したいと思います。</p> <p>【「ウェルカムパーティー」の開催】</p> <p>市には年間 2 万人の転入者がいることや、会の性格上、行政がやるよりは市民が主体となって実施するべきと思われますので、連合自治会に市からご提案の手法を提案することで、進めていければと思っています。</p>
市民委員	<p>市民が主体となるべきという点はおっしゃるとおりだと思いますが、分科会では全市レベルで実施することに意義があると思って提案している点を踏まえていただければと思います。自治会ごとに開催するのではなく、あくまで全市的な開催の可能性を検討していただきたいと思います。</p> <p>また、自治会加入促進キャンペーンとは趣旨が異なる点も考慮していただければと思います。せっかく、わかりやすい名称を提案しましたので、同キャンペーンとは別にあくまで「ウェルカムパーティー」としてご検討いただければと思います。</p>
市民委員	<p>参加希望者は多いほうがいいですが、2 万人全員が集まるということはないでしょう。全市レベルでやっても対応できるのではないのでしょうか。</p> <p>また、新住民に限定することなく、団塊の世代の地域での再デビューの場としても位置づけることが重要だと思います。</p>
市	<p>【団塊の世代によるまちづくり応援団の結成】</p> <p>提案の内容はぜひ検討したいと思います。団塊の世代からいかにメインとなる参加者を巻き込むかが課題だと思います。</p>
市民委員	<p>足利市では団塊の世代がまちづくりに関わる気運が醸成されています。こうした取り組みをぜひ参考にしてもらいたいと思います。</p>
市	<p>【自治会情報の共有化】</p> <p>ご提案のポータルサイトについては、まさに必要だと思っています。自治会連合会へのホームページの作成の支援を通じて、ご提案の内容については実現していきたいと思っています。</p>
市民委員	<p>自治会にホームページの作成支援をしても、自治会の幹部はお年寄りが主体であるから、あまり効果的ではないのではないのでしょうか。むしろ、学生が主体となって地域のホームページを作成してもらえよう、行政から</p>

	<p>呼びかけをしたり、そうした場の提供をセッティングしたりといった活動のほうが効果的だと思います。</p>
市	<p>【公共施設のタイムシェアリング】</p> <p>ご提案の内容のうち、利用時間や法律的な制約による運用の制限については、これまで洗い出しをしておりません。耐用年数や財務的な視点からの公共施設の整理だけでなく、利用のしやすさの面からみた横断的な施設の現状の把握の改善策の検討を進めていきたいと思っています。</p>
市	<p>【「うつのみや防災士」の普及】</p> <p>宇都宮で独自に防災士をやるにしても、救急救命士など既存の防災に役立つ資格と比べてその資格内容はどのようにするのか、取得方法は、取得してから活動は、自主防災会との関係は、など詳細に詰めるべき点が多くありますので、今後とも検討していきたいと思っています。</p>
市民委員	<p>全国的に存在する防災士については、宇都宮での取得者はほとんどいないため、防災への効果は限定的です。市が主体となって、市民でも取得でき、かつ防災時に役に立つ資格となるよう、ぜひご検討いただければと思います。</p> <p>また、自主防災会ではなく、防災士のような資格とする意味は、各企業で1人は取得、など目標を定めた普及がしやすい点にあります。この点も積極的に踏まえていただければ幸いです。</p>
市	<p>【「わたしもやっているまちづくり」宣言】</p> <p>既に「明るく楽しいまちづくり表彰」が同様の趣旨で行っています。また、市民に身近で波及的な効果がある活動をどのように発掘するかが課題と認識しています。</p>
市民委員	<p>分科会からの提案内容は、特に表彰にはこだわっていません。それよりも、自分にもできそうなちょっとした活動が広く紹介される点に重きをおいています。表彰するまでもない事例であっても、幅広く取り上げていけばよいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>憲章の名称だとしても、「明るく楽しいまちづくり表彰」では、いかにも当たり前すぎる名称で市民には響かないと思われるので、「わたしもやっているまちづくり」宣言に名称を変更した上で、内容も表彰にこだわらない、</p>

市	<p>というかたちで検討いただいてはいかがでしょうか。</p> <p>【地域通貨・コミュニティビジネス・社会企業家】</p> <p>宇都宮市は広大な地域であるため、地域通貨は実現がなかなか大変な取り組みだと認識しています。コミュニティビジネスや社会企業家については、ぜひ可能性を検討していきたいと思っています。</p>
事務局	<p>以上で検討を終わります。ご出席いただいた策定本部のみなさん、ありがとうございました。</p>
市民委員	<p>限られた時間にご議論いただきましてありがとうございました。</p> <p>私は、市が「協働」を指針として掲げるのであれば、策定本部には、分科会の提案に対して「この点が課題でできない」という指摘をするばかりでなく、「こうすれば提案の趣旨を活かした事業が実現できる」という前向きな姿勢で捉えていただく必要があると感じました。</p> <p>仮にも「みんなでまちづくり課」という組織があるくらいですから、その名前に負けない本気の協働の取り組みを行っていただく必要があると思います。</p>
事務局	<p>「第5次総合計画の対応」の部分については、他の分科会とあわせたため、当分科会からは極めて具体的な提案をいただいたにもかかわらず、大変あいまいな書きぶりとなってしまい申し訳ありませんでした。今後の課題とさせていただきます。</p>
市民委員	<p>次回は週明けの月曜日の18時からです。よろしくお願いいたします。</p>